

今日の説教のポイント<Ⅱコリント 12 章 1～10 節>

①てんかんを起こしたパウロ。

先週はモーセが吃音だったこと、その彼を神様がそのまま用いられたことを見ました。今日のパウロの場合は、主に捕えられて伝道者になってから身体に問題を抱えるようになりました(12:7、使徒言行録16:6-7)。与えられた「とげ」(7)とは何だったのでしょうか？ 癲癇(てんかん)ではなかったか、とされています。

②主のために働いていたのになぜ？

それはパウロが懸命に取り組んでいる宣教の働きを妨げました。当然、彼はそれを去らせて下さるように神様に繰り返し祈りましたが、聞かれなかったのです。パウロはその理由を、自分が経験した神秘体験を誇って「思いあがらないように」されたのだ、と語っています(8)。どういうことでしょうか？

③祈っても聞かれなかったパウロ。その代わりに彼が見出したもの。

神様に捕えられた後で、神様のために懸命に働いている中で思い通りに働けなくなったパウロの戸惑いは大きかったでしょう。「神様、なぜですか」と祈る中で示された答えは、「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(9)、というものでした。パウロは悟りました、否、悟らされました。自分がなお自分の力に頼って生きようとしていたことを。「<私の>力は<あなたの>弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」、そう主は言われているのだと悟ったのです。だからパウロは、「キリストの力が自分の内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」(9)、と語れるようになったのです！

④人間の弱さに人間の強さでなく神の強さで立ち向かう。それが信仰！

私たちは信仰を持ってなお挫折に弱い存在です。それは、自分の力や知恵や経験によって立とうとすることからなお抜け切れていないからです。パウロでもそうだったのですから、私たちはなおさらです。しかし、パウロと同様にこのことに気づかされ、「神様が支えて下さり、神様が用いて下さる道があるのだ。神様に委ねてその道を歩んで行こう」と思えた時から全ては変わるのです(ある人の場合を紹介します)！